資料2

パブリックコメントの対応（案）

・総合計画基本構想（素案）へのパブリックコメントの実施概要及び結果は以下のとおりです。

○パブリックコメントの実施概要

【意見の募集期間】

- ・2025年3月27日（木）～4月25日（金）

【総合計画基本構想（素案）の閲覧場所】

- ・安芸高田市ホームページ
- ・市政策企画課（本庁舎第2庁舎2階）及び各支所窓口

【意見を提出できる方】

- ・市内に住所を有する方
- ・市内に通勤、通学されている方
- ・計画の内容に利害関係を有している方

○パブリックコメントの実施結果

- ・計4名の方からの意見提出

●総合計画基本構想（素案）へのパブリックコメントの結果と対応方針

パブリックコメントの結果		対応方針	
テーマ	内容		
将来像	基本理念と将来像	<p>1. (p.5「基本理念と将来像」) 基本理念に掲げられた「とけあう」「芽ぶく」「ひとつになる」をより深めるために、リアルな交流とデジタル技術を融合させる方向性を構想に加えるとよいと思います。これにより、多様なコミュニケーションが生まれ、市民一人ひとりが地域へのつながりをより身近に感じられる新しいまちづくりにつながると考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像の「受け継いでいきたい安芸高田らしさ」の箇所、市内外のリアルな交流だけでなく、デジタル技術を活用した交流により、多様なコミュニケーションを生み出し、新しいまちづくりにつなげていく旨、追記します。 ⇒資料4 第3次安芸高田市総合計画基本構想の6頁で対応
	新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能	<p>2. (p.7「新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能」) 地域の魅力をさらに高め、効果的に発信するために、IoTなどのデジタル技術を用いた情報発信や交流の仕組みを構想の視点に取り入れるとよいと思います。リアルタイムで地域の情報を共有することで、訪れる人や住民が新たな視点から地域の魅力を感じることができ、将来に向けた新しい価値観の創出につながると考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能」を高めるために、デジタル技術を活用した情報発信や交流の仕組みを構築していくことも必要な旨、追記します。 ⇒資料4 第3次安芸高田市総合計画基本構想の7頁で対応 ・“機能”の整理を行っている「守っていききたい地域にとっての暮らしの機能」についても、デジタル技術を活用する旨、あわせて追記します。 ⇒資料4 第3次安芸高田市総合計画基本構想の8頁で対応
目標指標	ソーシャル・キャピタル（信頼・規範・ネットワーク）	<p>3. (p.13～14「ソーシャル・キャピタル（信頼・規範・ネットワーク）」) 市民同士の信頼やネットワークを一層深めるために、デジタル技術を活用した対話や交流の仕組みを構想の段階から検討するとよいと思います。デジタルを活用した多世代交流の場づくりを基本的な考え方として位置付けることで、より多くの市民が地域活動や対話に気軽に参加できる環境が生まれると考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ソーシャル・キャピタル」を高めていく上で、リアルな交流だけでなく、デジタル技術も活用した対話や交流の仕組みの構築も必要な旨、追記します。 ⇒資料4 第3次安芸高田市総合計画基本構想の9頁で対応
	定住人口の維持	<p>資料は非常によく調べてあると思う。いろいろな見方を通して意思決定の参考になるものが多い。反対に、参考資料が多いためか、1番の目標である「定住人口対策」が分かりにくくなっているため、もう少し人口を増やしたい！という目標を分かりやすく書いてもらえるとありがたい。 素案に基本構想と基本計画に基づく中長期ビジョンが具体的、現実的に書かれており、将来像「定住人口と農業産出額」ここはこれでもいいと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画の最終目標は基本理念の達成であり、市民の幸福度の向上を考えています。 ・基本理念の達成には、将来像の実現が必要不可欠です。定住人口対策については、将来像の中にも目標として位置付けており、重要な政策として考えています。 ・上記の考え方を追記します。 ⇒資料4 第3次安芸高田市総合計画基本構想の11頁で対応
		<p>4. (p.18「定住人口の維持」) 持続可能な定住環境を維持するために、セルフドライビングカー（自動運転車）など未来志向の交通手段の活用を構想の方向性に位置付けるとよいと思います。これにより交通弱者を含むすべての市民が安全で快適に暮らせる将来像が示され、地域の定住意欲を高めることができると考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動運転車等の未来志向の交通手段等の具体施策については、基本計画の策定で、参考意見とさせていただきます。

●総合計画基本構想（素案）へのパブリックコメントの結果と対応方針

パブリックコメントの結果		対応方針
テーマ	内容	
政策目標	子どもたちの学びと成長に寄り添うまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 多様なデジタル技術を地域の教育環境整備に取り入れる等の具体施策については、基本計画の策定で、参考意見とさせていただきます。
	公共交通	<p>公共交通機関について 現象は芸備線からのアクセスが非常に悪く、うまく活用されていない。 このため芸備線各駅と、名勝を結ぶコミュニティバスの運営を提案する。 具体的には、芸備線各駅、各道の駅、および美土里バスストップ上り、安芸高田市役所、安芸高田市歴史民俗博物館、パルパ前、湧永庭園、たかみや湯の森、土師ダムを結ぶ路線が望ましい（一度に回らずとも方面ごとにルートを設定すると良いと思われる） 現状でこれらの区域に芸備線から行くことはほぼ不可能である。 各ルートとも試験運用を行い、芸備線の利用促進と安芸高田のPRに繋げて発信されることを望む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本構想の将来像「新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能」において、地域外からの関係人口・交流人口を増やす方針を示しています。 こうした方々の多様な移動手段を確保する観点からも、地域内だけでなく、地域内外を結ぶ公共交通の利便性を高めていく旨、追記します。 ⇒資料4 第3次安芸高田市総合計画基本構想の9頁で対応
計画の推進	<p>ただし、実施計画の「5.計画の推進」については必ず慎重に検討すべき。というより、計画の時期を決めるべきではない。10年前、5年前の大企業の中長期ビジョンでさえ、今思い返しても全く的外れなものになっている。これは誰もコロナショックや大震災など予測できていなく、大企業も方針を大きく転換しなければならなかったから。だから基本計画まで準備をしておいて、実施はチャンスが来るのを待ち、ここがチャンスというタイミングでいち早く実施することがベストだと思う。例えば今米価格が高騰している、安芸高田市の一次産業を売り出すチャンス！といったように。 また、この方策の検討には「持続可能な」を外すべき。持続可能というSDGsに基づき聞こえはいいが、一般企業の10年存続率が10%以下であるように、持続できないとこと方が圧倒的に多い。そのため持続可能を必須条件とすると積極的な計画案が出にくい。市民が考える「こんなまちだったらいいな」を「それは持続可能でない」で一蹴され、市民が考える力を奪うことにつながる。石丸伸二の最大の功績である「市政に興味を持たせた」ように、安芸高田市総合計画は「市民に興味を持たせる」ことが1番大切なことだと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想の「5.計画の推進」では、計画期間を20年と設定しており、普遍的な考え方を整理しています。 一方で、基本計画は計画期間を4年間としており、毎年の進捗管理により、柔軟に見直せる仕組みとします。これにより、昨今の予測不可能な社会経済情勢の変化にも対応できる計画とします。この旨、追記します。 ⇒資料4 第3次安芸高田市総合計画基本構想の24頁で対応 基本構想における「持続可能」は、マクロ視点による地域社会の持続可能性として整理しています。 具体的な施策（方策）を検討する基本計画では、「持続可能」などという抽象的なキーワードの使用は避けます。

パブリックコメントの結果		対応方針
テーマ	内容	
基本構想全体	<p>内容はヒアリング等のまとめとして、何度も読み直し大体？ポチポチ？理解出来たと思います。今後20年を見据えた基本構想となると素案としてもなんだかぼんやりしていて…期待や勢いや…と言う部分が感じられなくて…。すみません。</p> <p>公民の案だけでなく安芸高田全町をプロデュース出来る企画会社を探すのはいかがでしょうか？</p> <p>お金が大層かかるとは思いますが…。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想の内容を踏まえて、基本計画において、地域との協働・共創による事業をプロデュースすることにより、将来への期待感を醸成していきます。 上記の考え方を追記します。 <p>⇒資料4 第3次安芸高田市総合計画基本構想の24頁で対応</p>